

NLProceedings 文書クラス サンプル文書

佐藤¹ 鈴木¹ 高橋¹ 田中²
伊藤^{1,3,4} 渡辺²
大学大学院² 大学 言語処理学部
株式会社⁴ 研究所
`{sato,suzuki,ito}@example1.jp` `takahashi@example2.jp`
`{tanaka,watanabe}@example3.jp`

概要

NLP2022 より、読者の論文理解を促進するため、所定のフォーマットの一部として投稿論文の概要を記載することにした（NLP2021 までは概要は記載する必要がなく、ほぼ全ての論文で概要が存在しなかった）。分量の目安は日本語 / 英語ともに「8～13 行」とする。概要が 8～13 行を満たさなくても賞選考対象外や不採択になることはない。ただし、極端に短い / 長い概要にならないように留意すること。日本語の場合は、文書クラスにより一行 23 文字に設定されているため、161 文字から 299 文字相当になる。

1 はじめに

NLProceedings 文書クラスは W3C により策定されている『日本語組版の要件』[1] に準拠することを目指す `jlreq` クラスをベースにしている。ただし、本文書クラスでは紙面スペースの都合上、多くの余白値をかなり詰めるように設定しており、例えば行間は がいこくじんさんせいけん 外国人参政権のようにルビを振れる最小限の余白に設定してある。

自然言語処理分野の論文では、単純なテキストのみならず、しばしば数式

$$P(B | A) = \frac{P(A | B)P(B)}{P(A)} \quad (1)$$

や箇条書き

- 第 1 の項目
- 第 2 の項目

といった構造も用いられるが、これらもよく知られた文書クラス（例えば `jsarticle` 等）と同様のシンタックスで利用できる。

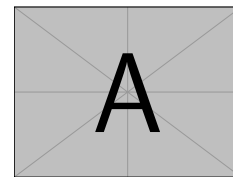


図 1 何らかの図

表 1 適当な表

日本語	Japanese	ほげほげ	ふげふげ
英語	English	hogehoge	fugefuge

2 図表の挿入

図表についても通常の \LaTeX と同じ方法を用いることができる。

2.1 図について

図の挿入は通常 `graphicx` パッケージによって行う（図 1）。クラスオプションにワークフロー（`dvipdfmx` 等）を指定していれば、各パッケージを読み込む際に何度も同じオプションを指定する必要はない。

2.2 表について

表組みももちろん利用できるが、図とは異なりキャプションは表本体の上に付ける（表 1）。

3 参考文献

参考文献の参照例。

- 論文誌の参照例 [2]
- 本の参照例 [3]
- 国際会議の参照例 [4]
- 技術報告の参照例 [5]
- Web ページの参照例 [6]

4 Writing in English

This paragraph shows an English sample. There is no problem with writing your manuscript in English. If you write in LaTeX, please use the distributed document class with the english option:

```
\documentclass[  
    platex, dvipdfmx, english]{nlp2022}
```

参考文献

- [1] W3C 日本語組版タスクフォース．日本語組版の要件（日本語版），（2020-11 閲覧）．<https://www.w3.org/TR/jlreq/>.
- [2] FirstName LastName. Title of the article. **Journal of Natural Language Processing**, Vol. 13, No. 1, pp. 251–258, 2006.
- [3] FirstNameA LastNameA, FirstNameB LastNameB, FirstNameC LastNameC, and FirstNameD LastNameD. **Title of The Book**. The Association for Natural Language Processing, 1988.
- [4] 著者氏名 1, 著者氏名 2, 著者氏名 3. 論文タイトル. プロシーディングスの名前, 1986.
- [5] 著者氏名 1, 著者氏名 2, 著者氏名 3, 著者氏名 4. 技報タイトル. Technical report, 出版者, 1985.
- [6] 著者氏名. ホームページタイトル, 2017. <http://www.pluto.ai.kyutech.ac.jp/NLP/>.